



平成19年 4月27日

各 位

神戸市須磨区弥栄台三丁目1番2号
株式会社 テン・アローズ
(コード番号 9885 大証二部)

特別損失の発生および業績予想の修正に関するお知らせ

当社において特別損失を計上することとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。
また、これに伴い、平成19年1月26日に公表しました個別業績予想と連結業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 特別損失の発生及びその内容

(連結業績予想に影響を与える特別損失の発生)

(1) 移転関連費用

レディースインナー等卸売事業につきまして、営業支援体制の再構築を図る目的でより効率的な運営を図るために、全国14箇所の営業拠点を移転させることとなりました。また、ギフト卸売事業につきましても、物流部門の再編と合理化を目的に、関東ロジスティクスセンターの和歌山ロジスティクスセンターへの移転・集約が決定し、それぞれに発生する移転に伴う諸費用(引越し代、現状復帰工事費等)646百万円を計上いたします。

(2) 減損損失

当社連結子会社が保有する固定資産について、「固定資産の減損に係る会計基準」の適用による減損処理の見直しを行った結果、ギフト卸売事業を構成する資産グループについて減損損失1,695百万円を計上することといたしました。

(3) 事業整理損、貸倒引当金繰入損

当社のコア事業であるレディースインナー等卸売事業およびギフト卸売事業についての集中・強化を図る目的で、関連する一部の事業についての事業整理を含めたグループ事業の再構築を行うことにより、事業整理損263百万円、貸倒引当金繰入損94百万円を計上することといたしました。

(個別業績予想に影響を与える特別損失の発生)

(1) 債務保証損失引当金繰入損

当社が㈱エニシルの取引金融機関に対し債務保証を行ったことにより、㈱エニシルが有する借入金の一部に対し2,303百万円の債務保証損失引当金を計上することといたしました。

(2) 関係会社株式評価損

先に開示いたしました、㈱エニシルの株式評価損につきまして、当会計年度末現在の時価相当額が開示時点より減少したため、85百万円を追加計上いたします。また、㈱がいS(ガイズ)および㈱エヌ・エル・シーコーポレーションの2社に関しましても、その財務状態等を鑑み当社の保有する子会社株式を時価相当額まで評価減することとし、当会計年度の関係会社株式評価損の計上額は当初の見込みより400百万円増加し2,218百万円となる見込みです。

2. 平成 19 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正(平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)
(単位：百万円、%)

| | 売上高 | 経常利益 | 当期純利益 |
|----------------|--------|-------|--------|
| 前回発表予想 (A) | 54,893 | 1,163 | △1,225 |
| 今回修正予想 (B) | 54,570 | 826 | △2,576 |
| 増減額 (B - A) | △323 | △337 | △1,351 |
| 増減率 | △0.6 | △29.0 | — |
| 前期(平成18年3月期)実績 | 61,134 | 1,091 | △76 |

3. 平成 19 年 3 月期通期業績予想数値の修正(平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)
(単位：百万円、%)

| | 売上高 | 経常利益 | 当期純利益 |
|----------------|--------|-------|--------|
| 前回発表予想 (A) | 5,586 | 661 | △2,037 |
| 今回修正予想 (B) | 5,601 | 693 | △4,477 |
| 増減額 (B - A) | 15 | 32 | △2,440 |
| 増減率 | 0.3 | 4.8 | — |
| 前期(平成18年3月期)実績 | 34,116 | 1,936 | 822 |

※ 当社は平成18年6月1日付けで持株会社体制に移行いたしました。従いまして、前期実績につきましては、移行前における株式会社シャルレの実績であります。

4. 修正の理由

(1) 連結業績予想の修正の理由

通 期

売上高につきましては、平成 19 年 1 月 26 日に公表いたしました業績予想よりやや下回り、当連結会計年度では 54,570 百万円となる見込みです。

利益面につきましては、レディースインナー等卸売事業で、粗利の低い商品群の売上構成が高くなったことや、在庫処分・評価減が当初の計画より増加したこと、また、ギフト卸売事業につきましては、売上高の未達に加え、販売費及び一般管理費が増加したことにより、経常利益が 337 百万円減少し、826 百万円となる見込みです。

また、前連結会計年度までレディースインナー等卸売事業において税金資産の回収可能性を勘案し税効果会計の適用を見送っておりましたが、安定した課税所得を得る計画に目途が立ったため、当連結会計年度より税効果会計を適用することといたしました。

しかしながら、連結決算では前述の特別損失の発生が見込まれることから、当期純損失は 2,576 百万円となる見込みです。

(2) 個別業績予想の修正の理由

通 期

売上高につきましては、概ね予想どおりとなる見込みです。

利益面につきましても、経常利益は概ね予想どおりに進捗しておりますが、当期純損失につきましては、前述の特別損失の発生により 4,477 百万円に修正いたします。

(注) 上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しております。予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想と異なる場合があります。